

道北地域の景気の基調判断を引下げました（2012年10月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、10月1日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を幾分引下げ、「横這い圏内で推移している」としました。基調判断の引き下げは今年1月以来、9か月振りとなります。本日公表された9月短観における業況判断D.I.は△9%ポイントと、6月短観（△8%ポイント）に比較し企業の景況感は幾分悪化しました（ただし、9月短観では回答期間の関係から、尖閣諸島問題の影響はほとんど織り込まれていないものとみられます）。需要項目別にみると、最大の需要項目である個人消費（観光を含む）は持ち直しの動きが鈍化しています。大型店の売上高は横這い圏内で推移しています。自動車販売は政策効果（エコカー補助）から前年を上回りましたが、増勢は鈍化しています。観光はインバウンド・道外観光客の持ち直しに伴い、持ち直しの動きが続いてきましたが、足もと中国人観光客のキャンセルの動き等尖閣諸島問題の影響がみられています。設備投資、公共投資は低水準で推移しています。住宅投資は持ち直しの動きに一服感がみられています。この間、雇用情勢は労働需給面を中心に改善の動きが続いています。生産は強弱区々の動きとなっています。農作物の作柄は水稻、畑作とも総じて良好です。

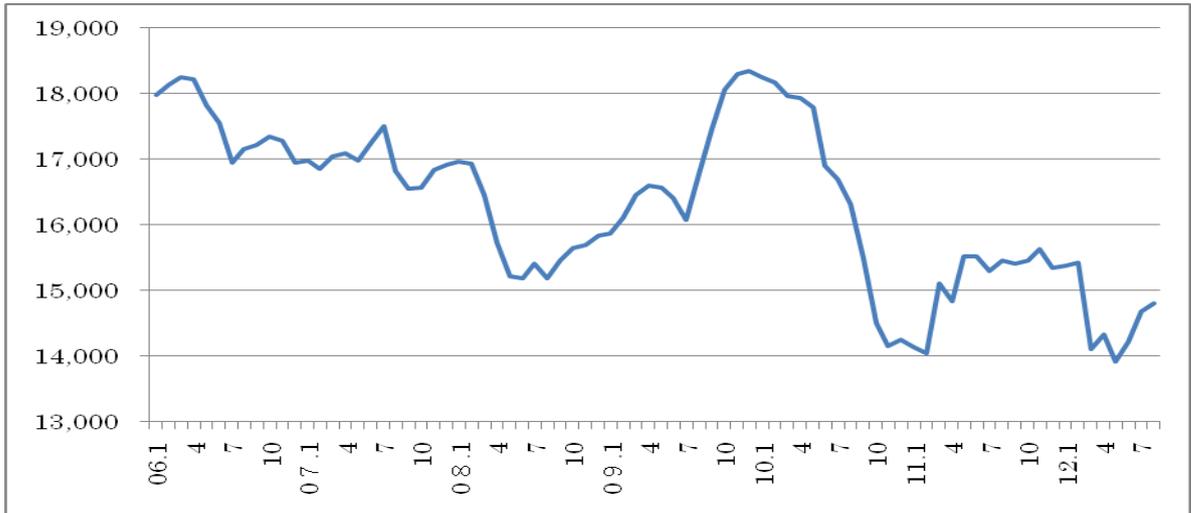
好悪材料を整理すると、まず好材料としては、農作物が今年は天候に恵まれ、水稻・畑作とも作柄は総じて良好であることがあげられます。復興関連需要については、新規求人の増加等のルートを通じて間接的に波及してきています（もっとも、道北地域における直接的な波及は、一部に限られています）。一方、悪材料としては、これまで持ち直してきた観光については、インバウンド観光客で足もと尖閣問題の影響がみられているほか、問題の長期化等影響の拡大が懸念されています。自動車販売はエコカー補助金が9月21日で終了となり、これによる押し上げ効果がなくなりました（もっとも、駆け込み需要があまり大きくなかったこともあって、反動減もそれ程大きくない模様です）。全国の景気は世界経済の減速に伴う輸出の伸び悩み等から回復の動きが一服しており、道北地域の景気にも観光や製造業の生産その他様々なルートを通じて悪影響が及ぶ可能性があります。この間、公共投資は農業体質強化基盤整備促進事業の発注もあって下げ止まりのきざしがみられているものの、引続き低水準で推移しています。このように、現時点ではやや悪材料の方が目立つ状況となっています。

以下、基調判断の背景について、やや詳しく説明します。

公共投資は低水準で推移しています。8月の公共工事請負金額をみると、大型案件では上川総合振興局管内で旭川市の下水処理センター水処理施設建設工事（551百万円）、士別市のバイオマス資源堆肥化施設建設工事（551百万円）、宗谷総合振興局管内で豊富町定住支援センター新築工事（666百万円）があったこと等から、全体でも3か月連続で増加しました（前年比：+7.2%）。また、2011年度第4次補正予算で予算手当てされた農業体質強化基盤整備促進事業の工事が今秋ピークを迎える見込みです。振れを均すため後方12か月移動平均でみると、下図の通り下げ止まりの気配も窺われていますが、年初来累計ではなおマイナス（△4.7%）であることもあって、基調判断（低水準）は変更しませんでした。

【道北地域の公共工事請負金額推移（後方12か月移動平均）】

百万円



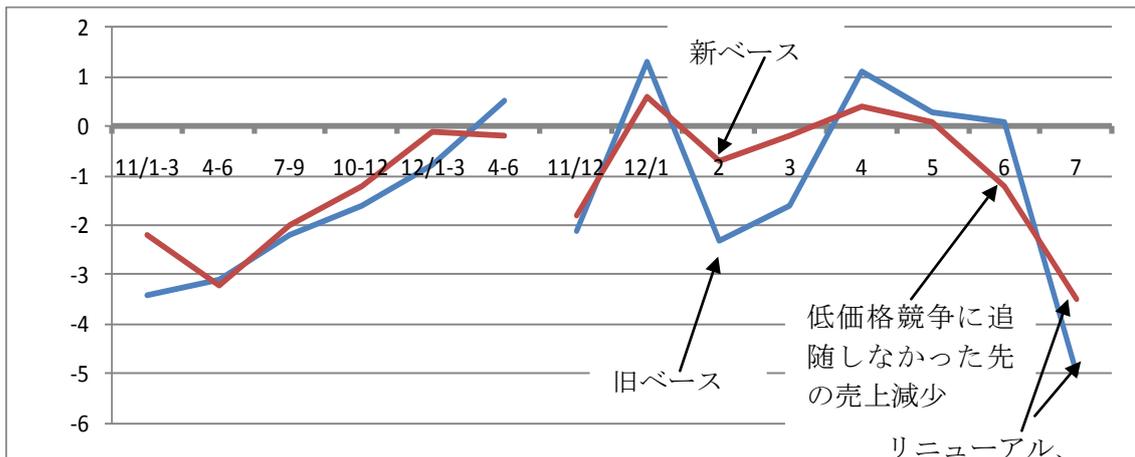
次に、消費・観光です。

- ここで言う観光には、消費に計上されるもの（道北地域に住む人の観光関連支出）のほか、移輸出に計上されるもの（道外、海外等から当地を訪れた観光客が当地で使った観光関連支出）を含んでいます。

まず、大型店売上高は、横這い圏内の動きとなっています（最新計数は7月で、コメントも足もとの動向を除き、前月の金融経済概況時と変更ありません）。

【道北地域の大型店売上高推移】

前年比・%



(注) 旧ベースは5社12店舗、新ベースは7社46店舗。

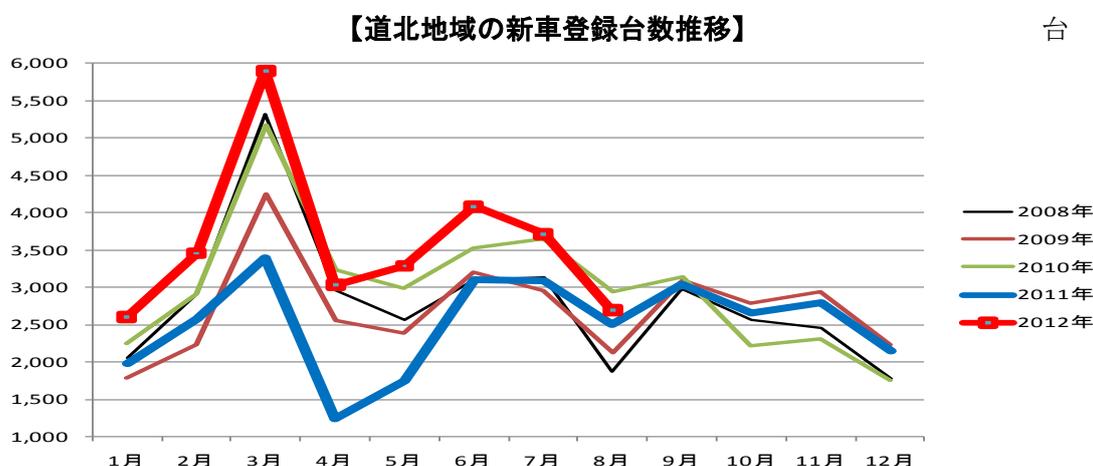
リニューアル、前年（薄型TV）の裏、曜日構成

7月は△3.5%の減少となりました。これは、前年（薄型TVがアナログ放送終了前の駆け込み需要から大幅に増加）の裏で家電が大幅に減少したこと、一部調査先がリニューアルを実施したこと（両者で前年比を1.6%押し下げ）、および今年は昨年に比べ土曜日が一日少な

かったことによるものであり、これらを除けば横這い圏内であったとみられます。品目別には、食料品は総じて底堅かった一方、衣料品が紳士服、婦人服ともに減少しました。百貨店における夏物のセール商戦が開催時期の分散化に伴い盛り上がりを欠いた（店自体は月初からセールを開始したものの、出店している一部ブランド店では月央から開始）ことも衣料品が減少した一因になっています。また、家電が大幅に減少しました。

8、9月は天候要因もあって、弱めの動きが続いているものとみられます。8月は、一部（レジャー関連、涼味類やおみやげ）で動意がみられたものの、お盆以降の猛暑に伴い秋物衣料の出足が鈍いままで推移しました。9月についても気温が低下したのが下旬に入ると遅かったため、秋物衣料は引続き不振となった模様です。

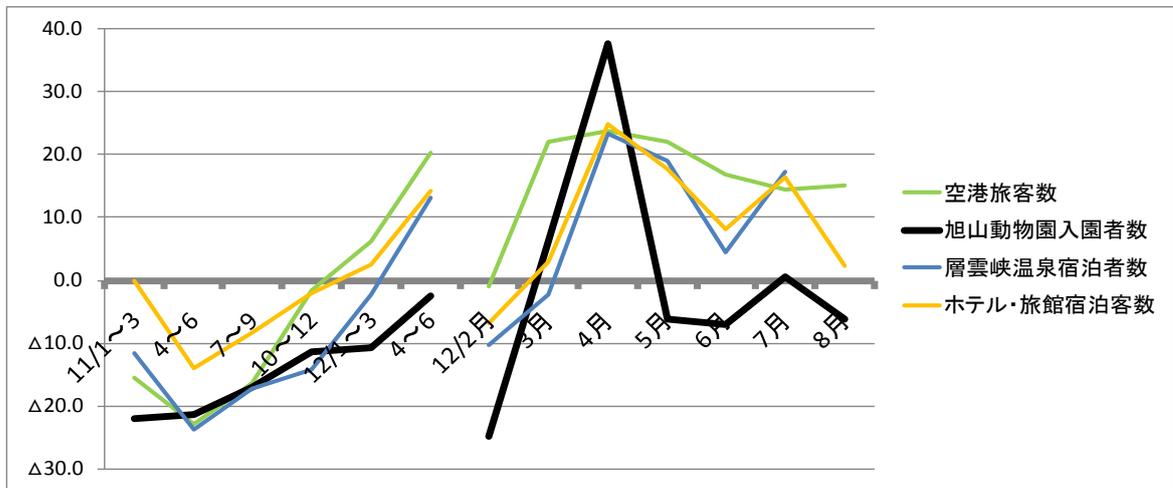
次に、自動車販売は引続き堅調に推移したものの、増勢は鈍化しています。2012年8月の新車登録台数は軽乗用車（+31.0%）を中心に前年を上回りました（+7.8%）が、エコカー補助金の予算切れを見越した駆け込み需要が事前の想定程の盛り上がりを見せない中、増勢は鈍化し（5月+88.1%→6月+31.7%→7月+20.5%→8月+7.8%）、前回エコカー補助金終了前の駆け込み需要で盛り上がった一昨年を下回っています（△8.6%）。エコカー補助金は9月21日で予算切れとなり、これによる押し上げ効果はなくなりました。9月は前年を下回りそうです。もっとも、足もとは「購入者の関心が燃費に集まる中、低燃費の新車投入効果もあって、反動減の大きさは前回（2010年9月に補助金切れ。2010年10～12月△20.9%）よりも小さい」との見方に沿った動きになっている模様です。



最後に、観光です。観光は四半期で見ると、2011年4-6月を底に、次第に持ち直してきており、全体としては持ち直しの動きが続いています。月次で見ると、かなり振れがありますが、8月については、空港旅客数、ホテル・旅館宿泊者数は増加、旭山動物園は減少となりました（層雲峡温泉宿泊者数は未公表）。

【道北地域の観光動向】

前年比・%

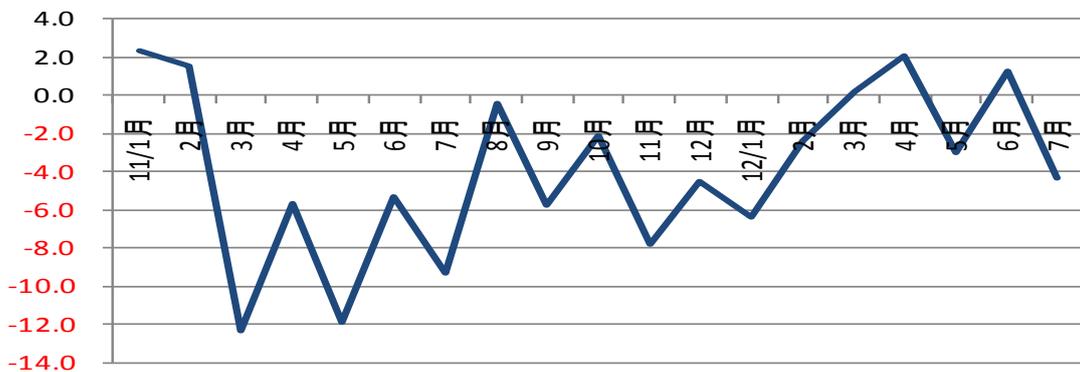


旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前々年差の推移（最新計数は7月で、前月の金融経済概況時点と変わっていません）は、下図の通り、4月まで順調に回復した後、一進一退の動きとなっています。

宿泊単価については、「震災前の水準に戻った」とする先もありますが、8月についても「下回っている」としている先が相応にみられています。

【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の前々年差推移】

%ポイント



8月については、「インバウンド客が大幅に増加し、よかった」（旭川市内のホテル）という声が聞かれた一方、「東京スカイツリー人気やロンドンオリンピックのためか、道内客は減少し、期待した程でもなかった」（富良野のホテル）とか、「お盆明け後は道内客中心に失速し、盛り上がりには欠けた」（層雲峡のホテル）との声も聞かれました。この間、旭山動物園は7月（+0.6%）に3か月振りに増加した後、8月（△6.1%）は再び減少しましたが、これまで（2010年度△16.3%、2011年度△16.4%）に比較すれば減少幅は縮小しています。なお、

猛暑で上野動物園等の入園者数が減少した影響もあってか、旭山動物園の7月、8月の入園者数が2010年9月以来約2年振りに全国一位になったことが報じられました。

9月については、「イベント需要もあって、まずまず」（旭川のホテル）との声が聞かれた一方で、「猛暑の影響で紅葉の時期が遅れたことに加え、回復を期待していた中国人観光客のキャンセルが相次ぎ、苦戦」（層雲峡のホテル）という声が聞かれています。

観光客別にみると、まずインバウンド観光客は持ち直しの動きが続いてきましたが、尖閣・竹島問題の影響が足もとみられており、しかも収束のきざしがみられないことが大きな懸念材料となっています。中国からのインバウンド客については、上述の通り尖閣問題に絡んだキャンセル等の悪影響が現実に出ています。秋の大型連休（国慶節<10/3日>、休日は9/30～10/7日）期間中における回復の目論見は、完全な期待外れの結果となりました。韓国についても11月からの仁川―旭川チャーター便の増便計画に今のところ変更はないと報じられているものの、「高い搭乗率とはならないのではないか」（旭川のホテル）と影響を懸念する声が聞かれています。中国・韓国を除くアジアからのインバウンド客は、台湾を中心に持ち直しの動きが続いており、「これまでのところ、悪影響はみられていない」（旭川のホテル）とのことでした。ただし、台湾からのインバウンド客は、これまでインバウンド客の持ち直しを主導してきただけに、「万が一にでも尖閣問題で日本を敬遠するような動きが出ると、影響は甚大」（層雲峡のホテル）と、先行き影響が出かねないことを不安視する声も一部で聞かれました。

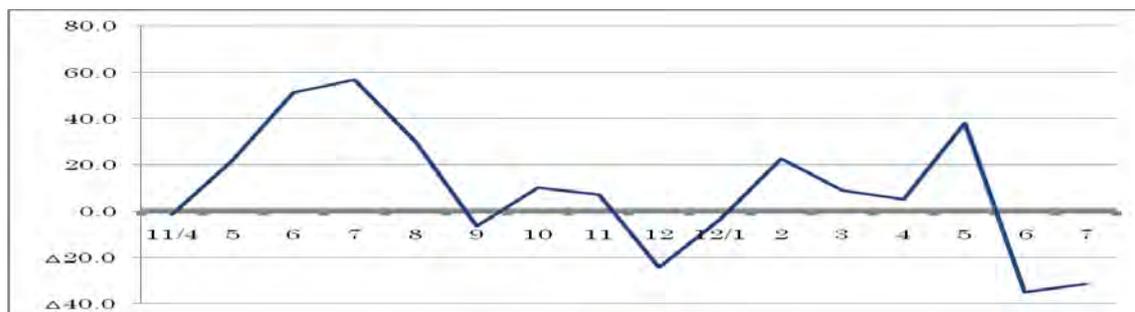
道外客は昨年の自粛ムードの反動や機材大型化の効果などから緩やかに持ち直しています。ただし、先行きについては「宿泊客数ベースではほぼ震災前の状態に戻ってきており、ここから更に入込客が増加するためには何か新しい材料が必要だが、全国の景気も厳しいようであり、なかなか好材料は見当たらない」（旭川のホテル）との声も聞かれています。この間、道内客は、東京スカイツリーに注目が集まっていることもあって、弱めの動きが続いています。このように、全体として緩やかな持ち直しが続いていますが、先行きについてはインバウンド客を中心に懸念材料を指摘する声が多く聞かれました。

（新設住宅着工戸数の最新計数は7月で、前月の金融経済概況時点と変わっておらず、以下前月と同じコメントです）。

7月の新設住宅着工戸数は大幅に減少しました（△31.4%）。7月の大幅減少は、昨年7月が住宅エコポイント終了前の駆け込み需要で大幅に増加した（+56.9%）ことの裏によるものであり、前々年比では増加（+7.6%）となっています。従って、基調判断としては、昨年夏場にかけての住宅エコポイント終了前の駆け込み需要で大幅に増加した後、その後は「持ち直しの動きに一服感がみられる」で変わりありません。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】

前年比・%

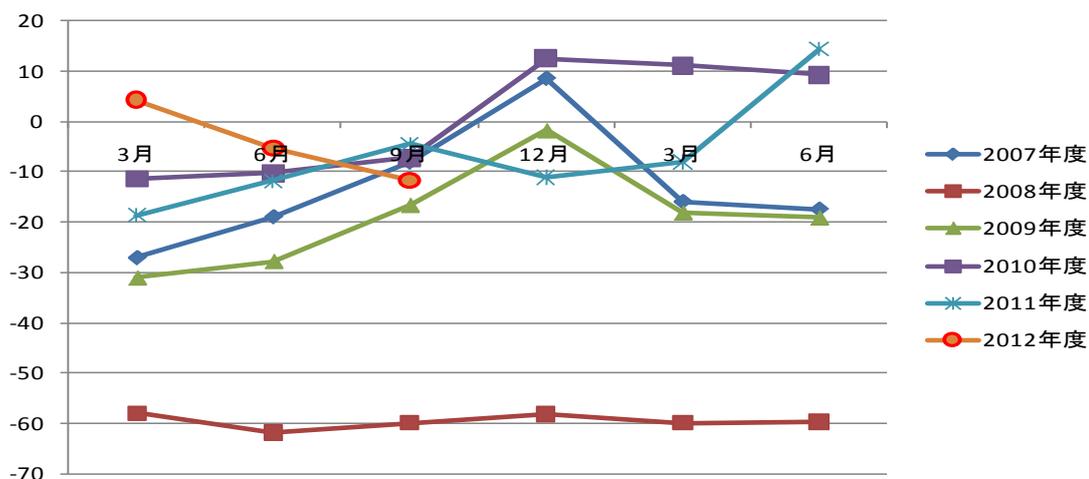


設備投資は、低水準で推移しています。

道北地域の「企業短期経済観測調査」(2012年9月調査)における2012年度の設備投資計画は、6月調査比△5.7%下方修正され、△11.7%の減少となりました。6月の前年度比下方修正は前年度(2011年度)実績の大幅な上方修正を反映したものでしたが、9月の前年度比下方修正は、円高や欧州経済の減速に伴う製造業の下方修正によるものです。

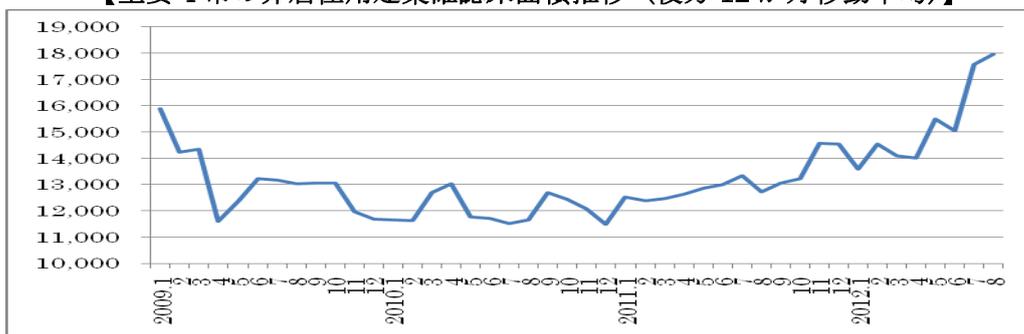
【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】

前年比・%



一方で、設備投資と関連性がある建築確認申請床面積(非居住用)をみると、8月は3総合振興局すべてで増加し、全体でも2か月連続で増加しました。振れを均し、季節要因を調整するために12か月後方移動平均でも、下図の通り、2011年以降、着実に持ち直し、2009年初の水準を上回っています。なお、建築確認申請床面積(非居住用)には、工場や小売店舗の増床以外に老人ホーム、学校、病院や刑務所等も含まれています(たとえば、7月の大幅な増加は、北見市における病院建設によるもの)。このような非居住用建築の増加には、公共投資が低水準で推移する中で、建設業者の業況を幾分でも下支えする効果があるものとみられます。

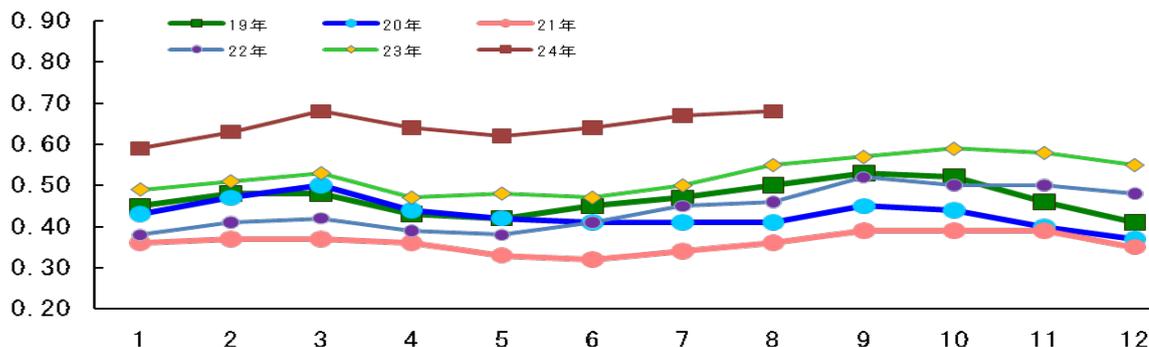
【主要4市の非居住用建築確認床面積推移（後方12か月移動平均）】 m²



雇用情勢は、労働需給面を中心に持ち直しの動きが続いています。

労働需給は改善しています。8月の有効求人倍率は、4地区すべてで前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、前年を上回る状態が続いています。8月の旭川地区における新規求人数は+3.8%の増加となりました。内訳をみると、ウエイトの高い社会保険・社会福祉・介護（前年比：△6.4%）が当月は減少しましたが、建設業（同+48.3%）、宿泊業・飲食サービス業（同：+33.1%）で増加となりました。この間、新規求職者数は総じて落ち着いた動きとなっています（旭川地区の8月：△9.0%）。このように雇用情勢面では改善の動きが続いていますが、雇用・所得環境を判断する上では、求人・求職間のミスマッチ（8月の旭川地区の建設・土木作業員の有効求人倍率は2.09倍と求人超となっている一方、一般事務員は0.22倍）や厳しい所得環境（国家公務員や独法で大幅な給与削減等）を割り引いてみる必要があります。

【旭川地区の有効求人倍率推移】 倍



製造業は、強弱区々の動きです。製材の生産は円高に伴う輸入材との競合を主因に6か月連続で減少しました。広葉樹は増加の一方、ウエイトの高い針葉樹が一般製材における輸入材（ホワイトウッド）との競合を主因に減少しています。合板の生産は減少しましたが、手間のかかる高付加価値品へのシフトが主因であり、実態的にはフル生産が続いています。紙・パルプは、印刷用紙が減少したものの、針葉樹パルプシートが増加したほか、雑種紙（紙器）が稼働率向上のため一部製品を輸出に振り向けたこともあって増加しました。電子部品関連は、新製品の作り込みの終了から減少が続いています（合板は7月、その他は8月計数に基づいて記述）。

農作物（9月15日現在）の作柄は8月後半以降好天に恵まれ、総じて良好です。まず、水稲（うるち）の穂数は平年比108%、水稲（もち）の穂数は同122%、畑作も馬鈴しょの上いも数は同106%（以上は上川総合振興局調べ）、小豆の着莢数（ちゃつきょうすう）は同105%、てんさいの根周は同100%（収量は増加の見込み）（以上はオホーツク総合振興局調べ）などとなっています。また、9月1日時点（同86%）で前年を下回っていた大豆の着莢数もその後の好天の継続で同102%（オホーツク総合振興局調べ）と前年をやや上回る水準になるなど、全般的に良好です。主力の水稲（うるち）における作況指数（上川）は106で、全国の102を上回りました（いずれも9月15日現在、農水省調べ）。懸念された暑さによる「白未熟」（米粒が白く変化すること）もさほど影響はなく、「ほしのゆめ」の作況が良好であるほか、「ゆめびりか」の品質も良好ではないか、との声が聞かれています。米の相場はさすがに昨年対比では下落する（正常化に向かう）ことが予想されるものの、全国以上に作柄が良好であることは、道北地域の景気にとってはプラス要因です。

一方で、8月のオホーツク漁業は、数量面ではすけそう、ほっけが増加した一方、かれい、その他（いかなご、たこ等）が減少しました。金額面ではほっけが増加しましたが、単価の高いかれいが大幅な減少となったほか、ほたても減少しました。この結果、全体（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）では、数量（△14.1%）、金額（△22.4%）ともに減少しました。

なお、9、10月が最盛期の秋鮭については、全道的に出足が遅いことが懸念されていますが、オホーツク方面（紋別港）では9月24日から本格的な水揚げがあり、極めて好調であるとの声が聞かれています。今後の動きに注目したいと思います。

その他の動きについては、[金融経済概況](#)をご覧ください。

旭川市の食べマルシェは今年3年目を迎えました。天候もまずまずで、来場者数は延べ84万7千人と過去最高を記録しました。常磐公園のステージでは今をときめくMs.OOJAさんがやってきて、来場者を大喜びさせてくれました。去年は7店だった「旭川しょうゆやきそば」は今年随分店の数が増えています。今年初めて出店された新子焼きも長い行列ができていました。道北を代表する食のイベントとして完全に定着したと言えます。今後はもっと早いタイミングで開催時期を公表し、全国から観光客を誘致することが課題であると思います。この間、旭山動物園は7月、8月と続けて入園者数が全国一であると報じられました。7月にオープンした北見市の新「山の水族館」も大人気であると報じられています。外部環境は厳しいものの、この夏、道北地域の食と観光の底力を改めて実感した次第です。

2012年10月1日

荒木 光二郎